

ブランチクラス

ビギナーズ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

1月10日(火) 1:30-4:00 講師 佐々木春子

2月7日(火) 1:30-4:00 講師 トム鳥山

お問合せ: 担当 渋谷明美 047-351-8581

ソーシャル・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

1月24日(火) 1:30-4:00 講師 長峯真弓

2月14日(火) 1:30-4:00 講師 柳川ともみ

お問合せ: 担当 寺久保ヒロ子 03-3801-6139

24時間ダンス

2023年9月30日(土) 1:00-4:30

日暮里サニーホール(日暮里駅南口3分)

RSCDS 100年を記念し、この日、24 hours dancing around the world「24時間ダンス」として全世界でダンス会が行われます。日本では3ブランチ合同(主管は東京ブランチ)で開催します。ブランチレター#118で述べた中核の10ダンスに3ブランチからの各2ダンスを加え、計16ダンスでプログラムされる予定で、MCも3ブランチに分けて担当します。

本部会費 £26 に

—本部年次総会で—

11月5日、グラスゴーでRSCDS年次総会が開催され、本部会費は昨年の25ポンドから26ポンド(¥180換算で¥4,700)への値上げが承認されました。前年比で10%の物価値上がりという、英国内のインフレに対応するためです。

人事では、わがブランチでもおなじみのウィリアム・ウィリアムソンが新チェアマンに、次期チェアマンはガリー・コール Gary Coull が選ばれました。

功労賞はつぎの方々に授与されました(カッコ内推薦ブランチ)。

ジューン・ディー (ウィンザー 〈カナダ〉)

フレッド・モイズ (キッチナー・ウォータールー)

キース・ローズ (ミルトン・キーンズ)

モーリーン・ラザフォード (役員会)

アン・テイラー (バンフシャー)

New Year Dance 2023

2023年1月14日(土) 1:00-4:30

赤羽会館 ¥1,000 みなさま大勢のご参加を

New Year Jig J32

Orpington Caledonians R32

Miss Milligan's Strathspey S32

The Jubilee Jig J32

MacDonald of Keppoch S32+R32

12 Coates Crescent S32

The Westminster Reel R32

Bratach Bana R32

Balmoral Strathspey S32

EH3 7AF J32

Scott Meikle R32

Hooper's Jig J32

The Minister on the Loch S32

The Deil among the Tailors R32

マガジン34号、やっと



マガジン35号に同封されて34号が6か月遅れで到着しました。遅れのわけは、当初ウクライナ戦争による国際郵便の混乱、つぎに本部コンピュータの誤作動と述べました。

マガジン発送にあたり、本部は登録会員の確認を約1.5か月前に世界各ブランチに求めますが、東京ブランチは返信をミスしたため、全会員がマガジン不要で登録され、34号はだれにも届かなかった、という事情です。

本部に責任はなく、人手不足もあって、あらためてのマガジン送付は難航しましたが、現セクレタリの数回におよぶ粘り強い交渉により、34号・35号同時発送となりました。今後このようなことのないよう、十分に気をつけます。

ブランチは存続、解散、合流？

新運営委員会となって半年が過ぎましたが、この先を考えたとき、ブランチ存続・解散の問題が解消したとはいえません。現委員の任期満了となる2024年3月末までに次の委員が定まるかどうかですが、さきの委員就任困難劇にみられるとおり、ことごとく就任を辞退されました。この状況が変わって、さらなる新運営委員会が生まれることを期待しています。

とはいえ、いまのところ存続してほしいが委員はかんべん、という会員がほとんどで、解散にいたる行程表づくりが必要という状況のようです。

これからみなさんのお考えを聞き、ブランチの将来について結論を出したいと考えます。

新橋・烏森神社に参拝



運営委員会は、11月、新橋の烏森神社で会員の健康・行事における安全・会場抽選の幸運を祈願しました。

会場予約はいつ、いくら？

3年にわたるコロナ渦期間中に会場予約のやり方が大きく変わり、確保に苦労しています。一番の変更は希望団体が激増し定常的な会場確保が困難になったこと、そして予約抽選がガラポン抽選器からコンピュータ抽選になったところにあります。会場使用料は会報の会計報告で明らかですが、会場予約時期はつぎのとおりです。どこの施設も冷やかし申込防止のため、当選と同時に使用料払い込みとなっています。当選して年度がまたがり、会計処理に困るのが難点です。

施設名	予約抽選	使用料
千代田区立スポーツセンター	2か月前	¥2,000
まなぼーと成増	随時	¥1,200
駒込活動センター・午前午後	3か月前	¥10,100
赤羽会館・午前午後	6か月前	¥33,920
杉並公会堂グランサロン・午後	10か月前	¥18,480
日暮里サニーホール・午前午後	12か月前	¥81,250

運営委員会報告

2022.9.2 (港区生涯学習センター。以下同じ)

- ・マガジン34号送付について4回目の督促を行なった。
→ 9/7、35号に同封して34号を送るとの本部回答あり。
- ・11月以降のブランチクラスの会場・講師を話し合う。条件が合えば4月～6月にビギナーズ・コースを実施したい。12月に講師担当可否の問い合わせを行なう。
- ・1/14のNew Year Dance ダンス・プログラムはより易しいダンスにすることももう一度考える。
- ・来年のウィークエンドは、コロナ状況不確定のため延期する。
- ・来年9/30「24時間ダンス」会場は日暮里サニーホールを確保。東京ブランチを主管とする3ブランチ合同行事も考えられ、その場合の会費徴収・損益3等分・ダンス内容決定など仕様を作り、他のブランチに諾否を問う。

2022.10.7

- ・行事におけるコロナ感染防止対策は、マスク着用・手指の適時消毒・手袋不要とした。
- ・New Year Danceのプログラム、会費額、MCなどを決定。ホール内デコレーションは次回で検討する。
- ・「24時間ダンス」合同開催は、埼玉ブランチはおおむね了承、東海は10月末の同ブランチ委員会結論待ち。
- ・次号ブランチレターは11月発行予定であったが、エリザベス女王の死去をうけ、本部の追悼記事を載せて10月末に発行する。
- ・2年後にブランチを解散するかどうかについて、会員に行く末を感じてもらい、これから本格的に委員会で話し合う。

2022.11.4

- ・New Year Danceの準備状況を確認。
- ・ブランチクラスの参加者少なく、クラスを1つにするか次回委員会で検討する。クラス開催日時はホームページ、LINEで早めにPRする。
- ・Book 53 ダンス講習会は杉並公会堂グランサロンに決まる。会場予約協力者にQuoカードを進呈する。
- ・9月30日「24時間ダンス」は東海・埼玉・東京の3ブランチ合同で開催することで基本的に合意。
- ・東海ブランチから「会員に限定せず25周年ダンス会を3/21大田区蒲田でやりたい」との申入れあり。特別な機会なので今回に限り了承する。
- ・ブランチの行く末に、存続・解散・他ブランチへの合流があり2月のブランチレターでアンケートをとる。

2022.12.2

- ・New Year Danceの準備状況を確認。
- ・ブランチクラスの参加者少なく、2月・3月の状況によっては4月からソーシャルだけにすることを考える。



あの Hugh Foss がこんなことを書いています。

「意識的に、あるいはより潜在意識下で、ダンサーは音楽と踊りがあっていることを好む。

では 40-bar の踊りを 16-bar の音楽で演奏する= 例えば ABABB と演奏する (以下 ABCD はそれぞれ 8 bars) ことにそれなりの理由があるのだろうか？

私 (Foss) の答えは、『hardly ever まずないだろう』である。

18 世紀の幾つかの 40-bar の踊りには 40-bar の音楽を使っていた。」と言って二つの例を挙げ、

「一つ目は 4-bar の旋律の繰り返しを 5 回 ($5 \times (2 \times 4) = 40$)、二つ目は 8-bar の旋律の繰り返しに続けて 12-bar の旋律を繰り返している ($2 \times 8 + 2 \times 12 = 40$) と説明しています。」さらに、

「現在の我々のレパートリーでは Braes of Atholl (ABB CD)、The Golden Pheasant (ABC BC) が目立たないやり方で 40 bars にしているが、他の多くは bar 32 が終わってもまだ 2nd place に着けない 1st couple の必死の合図に依って、ミュージシャンがおまけの 8 bars を投げかけているように思える。」と言って、幾つかの RSCDS の 40-bar の踊りを例に、記録された踊りを再構成する際に、色々な理由から元々 48 bars のものを短くしたり、32 bars のものに 8 bars 足して 40 bars にしたり、と具体的に説明しています。

もちろん新しく作られた 40-bar の踊りはこの限りではありません。

このような考察からあの 'The Wee Cooper O' Fife' ($4 \times 10 = 40$) も生まれたものと思われる。

たくさんの踊りを作ったあの John Drewry に 'Bon Accord' という面白い 40-bar Reel があります。

以前のゼネラルクラスで清水豊さんが取り上げてくれました。この踊りはその説明にもあるように、 $2 \times 12 + 2 \times 8 = 40$ という構成で、オリジナル曲も W.M. Carnie がそのように 2 曲作っていて、正しい曲を使うことが肝心だと書いてあります。しかし、多分唯一であろう CD の音楽では 2, 3, 4 曲目のオールタナティブ曲を、ポピュラーな曲に機械的に (としか思えない) 4 bars をつなげて $2 \times (8+4) + 2 \times 8 = 40$ にしているので、計算は合っているものの聴いてみて全く面白くないと感じるのは私だけではないでしょう。ぴったりと合った音楽で踊ってみたい踊りです。

また Hugh Foss は別のところで、「Red House はもともと 48 bars で AAB BCC の構成だったのが BOOK 7 では 40-bar の ABB CC という踊りなのに AAB BC の音楽という構成になっている」とも言っています。最新の BOOK 7 では楽譜も ABB CC となっているかもしれませんが、RSCDS の Colin Finlayson の演奏でも表題の曲は ABB CC で OK ですが残りの曲が ABABB になっていたりと不十分です。確認できた CD では Berkeley Scottish Players、Neil Barron、David South の演奏 (の構成) が対応していました。

同様の話題をさらにもう一つ。

同じ動きには同じ音楽が望ましいという考え方があります。例えば Maxwell's Rant や Muirland Willie の 1-8 小節と 9-16 小節は同じような動きの繰り返しなので ABB の演奏が良い、とか Eightsome Reel で 1st woman から順々に中で踊る部分では 24 小節を 2 回繰り返すので ABBABB の 48 小節で演奏してほしい、というものです。

私はこの意見に賛成しますが、こだわりすぎない方が良くとも思います。踊りを楽しめる範囲で、にしましょう。

Eightsome Reel で ABBABB と演奏しているのは The Cavendish Dance Band, The Pictish Players, Auld Reekie S. D. Band, Neil Barron, Jim Lindsay, Bobby Crowe, The Assembly Players, David South などの Bands で、名だたる Musicians の多くが気にしていない？ことがわかります。

他の踊りでもいろいろ聞き比べてみると何か発見があるかもしれませんね。

元々の Hugh Foss の文章は RSCDS London Branch の会報 'The Reel' や Chelsea Reel Club の 'The Crier' に載せた文章をまとめた 'Sandry writings anent Scottish dancing' (1978) という本に収められています。

(サークル東中野は 2022 年 11 月から活動を再開しました)

オーストラリア・ウィンタースクールに講師として参加して

小山 芳樹（東海ブランチ・チェアマン）

2022年9月25日(日)から10月2日(日)に、オーストラリア西海岸のパース郊外のミュレスク（Muresk）で開催された第45回ウィンタースクールに講師として参加しました。約100名の参加者で、日本からは妻のかおるの他に2名のダンサーが参加しました。本来は2020年に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で2年の延期を余儀なくされたので、例年参加しているダンサーにとっては待ちに待ったスクールです。今回、スクール責任者のJohn Brenchleyさんから招待を受けました。彼は、30 Popular DancesのTorridon Lassies、Book 49のOrpington CaledoniansなどRSCDSに5ダンスが採用されています。The Kangaroo Pawも彼の作です。

クラスは、月から土曜日までの6日間、午前中に3時間のクラス、午後は自由参加でゼネラルクラスや夜のダンスのためのウォークスルーがあります。私は最初の3日間はVery Advanced、次の3日間はAdvancedを担当しました。各クラスともダンサーは約28名でした。ミュージシャンは、前半は、米国に在住し世界各地で活躍のフィドラーJudi Nicolsonさん、後半は、アコーディオンのMarian AndersonさんとドラムのMax Ketchinさんご夫妻で、とても恵まれたクラス環境でした。

クラスのレベルは、日本と変わらない感じでした。45回のウィンタースクール歴史で初めて英語圏以外の講師だったこともあり、ダンサーの方々は興味津々で真剣にクラスを受けていただき、すべて英語という言葉の壁をあまり感じずに済みました。私が特に気を付けたことは、とにかく最初にまず動くか踊って見せること、そして注意点は言葉だけに頼らず、必ずどこかの場所を借りてやってほしいポイントを身体で示しました。これはRSCDSティーチングの基本ですが、日本でも外国でもこれが近道ということを再認識しました。大変だったことは、ゼネラルクラスを含め7クラスで28ダンスを教えました。ミュージシャンに早く伝えるために1ヶ月半前にすべてのダンスを決めて準備しなければならなかったことです。

夜は、ほとんど毎日がソーシャルダンスで、最後の土曜日夜にファイナルボールが開催されます。



ウィンタースクール講師陣（私の他に豪州2名、NZ2名。右から2人目がJohn Brenchleyさん）

毎日Marian Anderson Bandが演奏しとても贅沢でした。ソーシャルダンスでは、仮装の日やオセアニア発ダンスだけの日がありました。ファイナルボールでは、私はTriple Happinessを含む3ダンスのリカップを担当しました。アンコールは全体で3曲だけだったのですが、Triple Happinessがアンコールされた時はとても感激しました。

オーストラリアと日本で感じた違いは、パーティ前にマーチなどの演奏が始まり、ダンサー全員がウォークしながら身体を温めることです。クラス開始前や長い休憩の後にも同様にウォークします。このウォーミングアップはとても良いことです。また、体力の違いを感じました。48小節や64小節のダンスを厭わず踊り、2カップルダンスは4カップルセットで難なく3回連続で踊ります。また、毎日パーティ後は、サパーとして深夜まで音楽や交流を楽しみ、何時に終わっているか定かではありません。この体力の違いは、肉を沢山食べているからでしょうか。

スクール後の一週間は、夫婦でパース周辺の西オーストラリアの観光を堪能しました。初めて出会う愛らしい動物との触れ合いを楽しみ、雄大な自然に圧倒されました。こちらは、またどこかでお話しできればと思います。

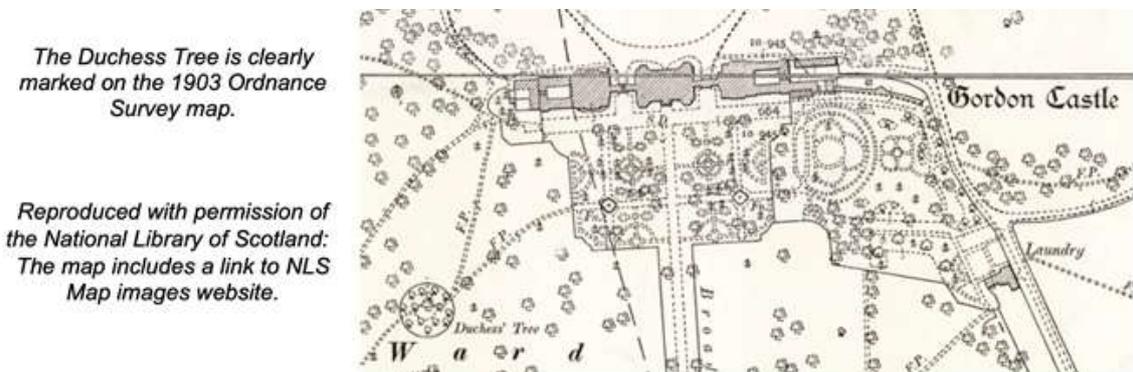
今回、いろいろ貴重な経験をさせていただきました。これもSCDという素晴らしい趣味のお陰と感謝しています。

The Duchess Tree – John Drewry

RSCDS が出版したダンスではないが、The Duchess Tree は人気のあるダンスである。公爵夫人と歴史的建築物に関するスコットランドの歴史、ならびにスコットランドの伝統音楽における 2 つの重要な音楽形式にまつわる興味深い物語がある。まず木にちなんで名付けられたチューンがあり、つぎにダンスが作られた。木はどこにあったのか、公爵夫人とは誰のことか、なぜ彼女の名は木、チューン、ダンスの名に残っているのかご存じだろうか？

木について

木から始めよう。The Duchess Tree 公爵夫人の木は、1903 年の英国陸地測量部の地図（日本国土地院の地図に相当）に載っていたくらい有名であり、マリーシャー、フォカバーズのゴードン城の敷地内にあった。ジョン・ドゥルーリはダンスの注記で、1911 年の調査では幹回り 5.2m（直径 1.7m）、枝の張り出し径 14m のセイヨウボダイジュの大きな木であったが今はない、と述べている。（ドゥルーリはフォレスのマーガレット・クックからこれを聞いたとのこと。）



1903 年の陸地測量部の地図。左下の円形が公爵夫人の木。スコットランド国立図書館の許可を得て複写。

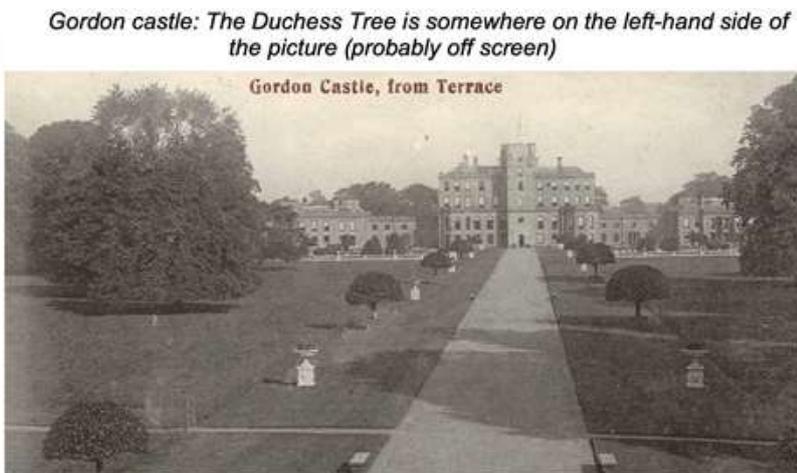
公爵夫人とは

ゴードン城はゴードン公爵の居城で、公爵夫人とは 1767 年に第 4 代アレキサンダー・ゴードン公爵と結婚したジェーン・ゴードン（1748 or 1749 - 1812）である。第 4 代公爵はゴードン城拡張の計画を持っており、印象的なファサード（正面）と高い中央塔を持つものであった。当時、スコットランドで最大の居城であった。この大掛かりなプロジェクトでは、近くのフォカバーズの町を移動させ、新しい城の場所を作る必要もあった。



Jane Duchess of Gordon by Sir Joshua Reynolds

ジョシュア・レノルズ画の公爵夫人ジェーン



ゴードン城。The Duchess Tree は写真の左側のどこかにある。（画面には写っていないと思われる）

公爵夫人はたいへん美しく、意思を持った女性で、「美貌の公爵夫人」として知られていた。エジンバラの上流社会で、活発な名士であり花形であった。公爵夫人はダンスと伝統音楽を楽しみ、娯楽は彼女の世界の重要な一部だった。

ロンドンの彼女主催の社交会でスコティッシュ・ダンシングを紹介し、スコットランドではノーザン・ミーティングを後援した。ノーザン・ミーティングは1788年に設立、ハイランドにおける社会的な交流を促進するための会である。彼女はまた、詩人ロバート・バーンズを後援した。

1794年、ジェーンはフランス革命政府に対峙する新しい歩兵連隊、ゴードン・ハイランダーズを設立するため、兵士募集に貢献した。軍服に身をつつめ、大きな黒い羽根飾りのついた帽子をかぶって公爵領を回った。兵役登録すると兵士に1シリング与えられる習わしがあったが、彼女はこれを約束した。

ゴードン城のセイヨウボダイジュが「公爵夫人の木」となっただけはよく分らない。そこが夫人のお気に入りの場所だったとか、大きな木の下でミーティングが開かれたとかは分らないのである。ただし、公爵とジェーン夫人の結婚生活は、2男5女をもうけながら決して幸せなものではなかった（公爵には子まで産んだ長年の愛人がいた）。結婚から22年後の1789年、彼女は公爵と別居し、彼女の関心はアビモア近くのスペイ川のほとりに建てた夏の家「キンララ Kinrara」に移った。

キンララ・ハウスはスペイサイドにおけるジョージアン（ジョージ朝）時代のすばらしい建物の一つである。ハウスはもともと娯楽を念頭において設計され、社交とダンシングへの彼女の意思を証明している。家全体に張られた弾むウッド・フロアは、2つのレセプション・ルームと中の中をカバーしていて、全長20mに及ぶ。

第4代公爵の大掛かりな城と公爵夫人の木はいまはもうないが、キンララ・ハウスは夫人の永続的な記念碑として、スペイ川のそばに今も残っている。

公爵および公爵夫人について話を終える前に、有名なフィドラーであり作曲者のウィリアム・マーシャルが第4代公爵に雇われていたことを記しておきたい。RSCDSはマーシャルのチューンを多数使っている。

チューンについて

The Duchess Tree のチューンは、フィドルの名手ジェームズ・スコット・スキナーによって作曲されたものである。バンホリー出身のスコット・スキナーは、ダンシング・マスターおよびバイオリニストとして生計を立て、ダンシングを教え、音楽リサイタルを開催していた。The Duchess Tree は1888年、ロージー・コレクション The Logie Collection の中の曲として出版された。歌詞の最初のフレーズは、

緑の木々のゴードン城を巡りましょう
花は美しく咲き
すてきな葉陰の
公爵夫人の木の下で逢いましょう

歌詞はW.M.の作詞である -W.M.とはだれ？

ロージー・コレクションで The Duchess Tree のキーはAフラットメジャー（変イ長調・フラット4つ）で載っているが、今日われわれが踊っているのはAメジャー（イ長調・シャープ3つ）である。3年前、キース町のゴードン・アームズ・ホテルのミセス・パークリーが、スコット・スキナーからもらったというスクラップブックの中に、The Duchess Tree の楽譜稿があった。スクラップブックのチューンはより身近なAメジャーで、タイトルは The Bonnie Bonnie Duchess Tree となっていた。この写しはアバディーン大学のウェブサイトで見ることができる。

ダンスについて

ジョン・ドゥルーリは1971年にこのダンスを作った。すぐに人気を博し、その人気は今も続いている。このダンスのもう一つの面は、出版されたとき、ストラスペイとしてスロー・エアを使うことの議論（論争といってもよい）であった。ダンスができる以前には、曲はかなり遅く演奏されていたのである。今日では、ダンシング・チューンとしてスロー・エアの使用をめぐる議論がどうであったかを理解することは困難である。ただし、ジョン・ドゥルーリは次のように述べている。

「音楽の選択が第一に重要である。音楽は踊る衝動を与え、理想的には、まず音楽を選択し、その音楽からダンスの動きを成長させる必要がある。」

というわけで、ダンスは今も踊られている。公爵夫人にちなむ木はもうないが、その思い出はチューンとダンスに生き続けている。

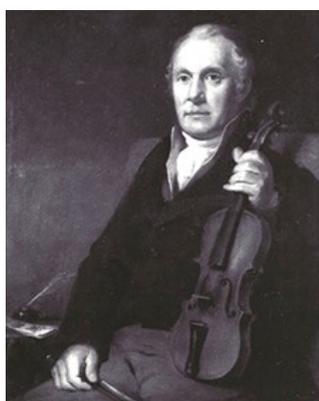
ダンス名のうしろにあるもの (番外 1) スコティッシュ音楽の作曲家

By Anne Taylor アン・テイラー, 教育訓練委員長, Dance Scottish at Home, Issue 6, 1/5/2020

William Marshall ウィリアム・マーシャル - 1748 - 1833

ウィリアム・マーシャルは、私が長く住んでいたフォカバースで生まれたので、私にとって近い存在である。また、私は長年ミルン小学校の子どもたちを教えてきた。この小学校はカリキュラムの一環として、P2 から P7 までのクラスにスコティッシュ・カントリー・ダンスを科目にしている数少ない小学校の1つである。

ウィリアム・マーシャルは、1748年12月27日にフランシス・マーシャルとイゾベル・イネスの間に生まれ、妹のジョン、兄弟のアレクサンダー、ヘンリーとともに育った。彼は、ガイト城（現在ゴードン城として知られている）のハウス・ボーイ（雑用係）になる前、約6か月間ギリシャ語・ラテン語学校に通っただけと考えられている。ガイト城はスペイ川（スコットランドでもっとも速い流れの川）のそばにあり、第2代ハントリー伯爵、ジョージ・ゴードンによって1479年（応仁の乱終息の2年後）に築かれた。



マーシャルはゴードン城でジョン・アンダーソン師によって初等教育を受けた。ジョン・アンダーソンはゴードン領の支配人を務め、キニューシで27年間、ベイリー（フォカバース地区）で11年間、牧師だった人である。1819年、アンダーソン師は信者総会で任を外されたが、公爵の支配人役は続けた。ウィリアム・マーシャルは師を念頭において'Anderson's Rant' アンダーソンズ・ラントと題した曲をつくった。この場合のラントは活気に満ちたエネルギッシュな曲を意味している。

マーシャルはハウス・ボーイとして城での生活を始めたが、すぐに頑健さと運動能力が認められ、ハンサムで、賢く、優秀な使用人と記録されている。彼はまた卓越した音楽的な才能を発揮し、第4代ゴードン公とその夫人は彼の才能を早くから認め、召使、使用人頭、ついで執事に任命した。彼は1790年にゴードン城を離れ、ゴードン領キースモア地区の土地管理人になった。

第4代ゴードン公、アレキサンダー・ゴードンは啓蒙の人で、音楽や詩作を含む多くの分野に興味を持っていた。実際、ロバート・バーンズはゴードン城を訪れ、彼のもてなしに対し、「公爵は偉大なる高貴な人で、穏やか、恩着せがましくなく、愛想がよく、男らしく親切で、私をととても幸せな気分させてくれた。公爵夫人は機知に富み、スマートだった。ゴードン家に神の祝福を」と述べている。公爵自身、伝統的なスコティッシュ・フィドル音楽を作曲しており、1つの例としてマーシャルが1800年に出版したキンララ・コレクションの「Brodie House」は公爵の作品である。

マーシャルは1781年、ストラスペイ&リールの作品集を出版し、その他小作品集を出したが、これは公爵夫人の強い勧めがあったためである。公爵夫人は1789年に公爵と別居し、マーシャルの曲 Kinrara につながる、新しい家キンララをスペイ川のほとりに建てた。

私（アン・テイラー）と夫はフォカバースに落ち着く前に、キンララの隣の山荘風の家で5年を過ごしたことをお知らせして、この文の締めくくりとしたい。

ウィリアム・マーシャル作曲のチューンをオリジナルとしている RSCDS ダンスは：

Jubilee Jig の Miss Gordon of Liverpool、

Sugar Candie の The Earl of Angus and Arran、

Follow Me Home の Miss Catherine Stewart, Pettyveich がある。

スコットランドの伝統的フィドル音楽の作曲者、時計（クロック）製作者、ゴードン公の執事であったウィリアム・マーシャルの音楽を改めて認識するだけでなく、その他の面にも目を向けてほしいと願っている。

Loch Leven Castle – RSCDS Book 21

Original Tune – Loch Leven Castle (Traditional)

Loch Leven Castle ロッホ・リーブン城はリーブン湖の中の島にある遺跡である。しかし、みなさんが水の中を見れば、自らが引き起こした問題によって捕らわれの身となり、1568年（永禄11年。前年に斎藤竜興を滅ぼし稲葉山城を岐阜と改名、居城とした信長が、足利義昭を奉じて上洛したのは同年の9月26日。姉川の戦いは翌々年）5月2日に大胆に脱出した女王の物語を見ることになるだろう。小難からの脱出は、最終的に大難に飛び込むことになった。

その女王とは、波乱万丈の生涯を送ったスコットランド女王メアリーであり、湖の小島の城に幽閉された女王は何をしたのであろうか？

メアリー・クィーン・オブ・スコッツー幽閉されるまで

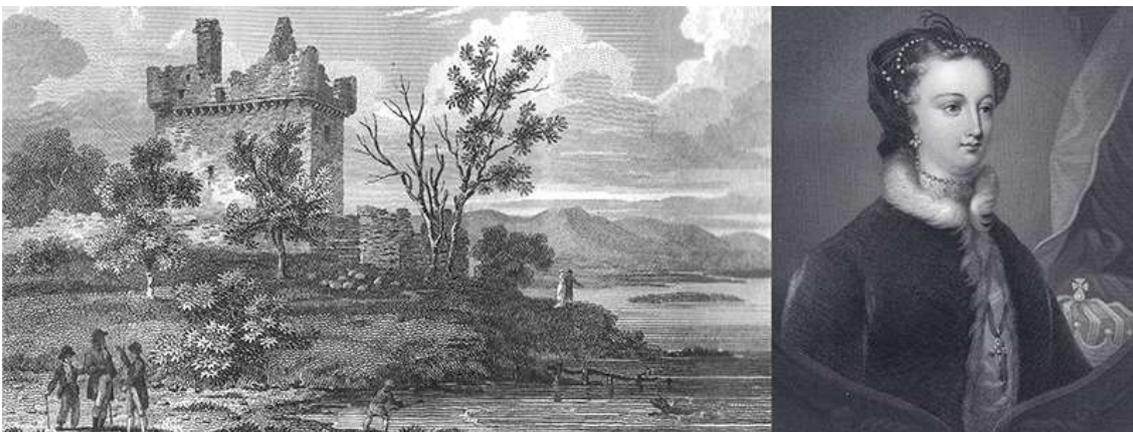
メアリーは2つの強力な王国と宗教改革に翻弄されたチェスの駒であった。

1542年、メアリーは父王ジェームズ5世の急死により、生後わずか6日でスコットランドの王位を継承した。プロテスタントの改革者に対抗し、カトリック教会が影響力を残そうと戦っていた、混乱の時代であった。イングランドのヘンリー8世はスコットランドとプロテスタントの英国を狙っており、彼の息子エドワードとメアリーとの結婚を提案した。幼い女王メアリーはどうしてよいか分からなかった。フランス王国が手を差し伸べたが、大きな代償があった。メアリーとフランス皇太子との結婚である。身の安全を守るため、5歳のメアリーは渡仏した。メアリーとフランス皇太子は1558年に結婚したが、1559年、わずか1年で夫が病死した。

1561年にメアリーは、1年前にプロテスタント改革を行なったスコットランドに、カトリックの君主として戻ってきた。この帰国は何年も前に計画されていたものではなく、将来のトラブルの元になる可能性があった。

物事はしばらくの間うまく運んだが、ダーンリー卿ヘンリーとの結婚という悪い選択は、負のスパイラルをもたらすことになった。メアリーの秘書官で愛人のデビッド・リッツィオがホリールード宮殿で殺害され、ダーンリー卿ヘンリーが殺人の背後にいた。ダーンリー卿はその後、エジンバラのカーク・オ・フィールズで殺害された。ボスウェル伯がダーンリー卿殺害の黒幕と噂されていたが、ボスウェル伯はメアリーを「捕え」て、ダンバー城に連れ帰り、2人は結婚した。これらの出来事はどれも品性に欠け、疑念ばかりが生じる。

その結果、スコットランドの貴族たちはメアリーを捕え、幼い息子ジェームズ6世を擁して退位を迫り、ロッホ・リーブン城に彼女を幽閉した。1567年、メアリーは25歳、3回の結婚のあとロッホ・リーブン城に捕らわれの身となり、王位を放棄せざるを得なくなり、加えて幽閉中に双子を流産した。



城からの脱出

1567年に脱出が試みられたがこれは失敗し、1568年5月2日の夜に2回目の脱出が図られ、成功をおさめた。ロッホ・リーブン城はサー・ウィリアム・ダグラスの監視下にあり、最初の脱出計画が失敗したあと、彼はメアリーの監視を強化した。城にはウィリアム・ダグラスの異母弟ジョージと、家族の1員として育てられたジョージの私生児の息子ウィリーがいた。

異母弟のジョージと、その息子のウィリーはメアリーに同情を寄せ、彼女の脱出を誓った。脱出は大胆であり、伝説に満ち、解釈に多くの異論がある。しかし、すべてはウィリーが脱出劇で果たした大胆な判断力を伝えている。

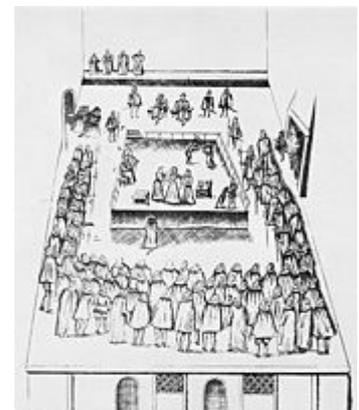
もっとも派手な言い伝えは、ウィリーは5月1日・2日のメーデー祭りを手配し、自分自身に「The Abbott of Unreason おかしな大修道院長／乱痴気騒ぎのリーダー（ミルトン・レビー作の同名のダンスあり）」の役目を与えた。この役割は祭りを主宰し、その日誰彼なしに自分の召使にできる権利を与えるものであった。ウィリーはみなに酒は飲み放題、踊り狂うよう誘った。

城の鍵束はサー・ウィリアムが所持していたが、その日の興奮のせいで所持がぐちゃぐちゃになった。ウィリーは鍵束の上にナプキンを落とし、食卓から持ち出すことに成功した。

ウィリーはホールを出て鍵をかけ、メアリーの部屋に急ぎ、扉を開けた。メアリーは召使の少女に服を変えた。一行はそこを離れ、通り過ぎた門・扉のすべてに施錠し、ウィリーがボートを繋いでいた裏門に向かった。彼は事前に他のボートに穴をあけ、追跡を妨害する予防措置を講じていた。

安全を確認すると、ウィリーは鍵束を湖に投げ込んだ。鍵束は約250年後（1805年）に湖水面が下がったときに偶然発見され、現在スコットランド国立博物館で見ることができる。

自由になったメアリーの結末は、しかしながら幸せなものではなかった。大胆な脱出の2週間後、彼女はグラスゴー郊外のラングサイドの戦いの渦中であつた。メアリーの軍隊は貴族連合軍に敗北し、大損害を被った。南に敗走し、ソルウェイ湾で臣下たちと船に逃れた。彼女はイングランドに上陸し、いとこのイングランド女王エリザベス1世に庇護を求めた。19年間イングランドで暮らし、1587年（秀吉が九州を平定した天正15年）2月8日、反逆罪によりエリザベス1世の命で斬首された。彼女のただ1人の息子、スコットランド王ジェームズ6世は、1603年のエリザベス1世の死後イングランド王位も継承し、イングランド王ジェームズ1世兼スコットランド王ジェームズ6世となった。



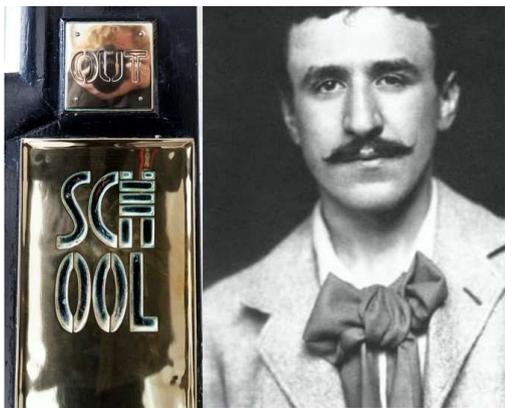
フォザリンゲイ城での斬首想像図



現在のロッホ・リーブン

ロッホ・リーブン城の遺跡は現在ヒストリック・スコットランド財団が管理しており、夏季には島へのボート・サービスがある。メアリーが幽閉された場所を見ることができ、城の生活がどのようなものであつたかを想像することができる。リーブン湖は国立自然保護区となっており、英国で最大の平地自然浅水湖である。夏の終わりから春まで数千羽の冬鳥のすみかであり、夏の数か月間はヨーロッパで有数のアヒルの繁殖池になっている。20 kmの遺産トレイルは湖の周囲をたどるコースで、楽しく、変化に富んだみなさんの自分発見のウォーキングでもある。

今週の DSAH は、建築家でありデザイナーであった人物と、船、そして世界で 3 番目に古い地下鉄について述べる。



1928 年 12 月 10 日

この日、チャールズ・レニー・マッキントッシュが亡くなった。1868 年（明治元年）6 月、グラスゴーで生まれたマッキントッシュは、1890 年代に当時の他の作品とは異なり、軽やか、エレガントで独創的なアイデアで独特な家具、ポスター、工芸品をデザインし、国際的な名声を得た。

彼の創案によるグラスゴー美術学校は、英国におけるアールヌーボー建築の最初の例であるとみなされている。



マッキントッシュのいす

1914 にいたって、マッキントッシュは建築家としての仕事をやめ、水彩画に身を投じた。数十年にわたり、彼は忘れられた存在となっていたが、20 世紀の終わりに再評価され、彼のデザインと作品は人気ある複製品として復活した。



1997 年 12 月 11 日

王室ヨット・ブリタニアが退役した日である。1953 年 4 月 16 日に就役したブリタニアは、女王とロイヤル・ファミリーを迎えて 100 万マイル以上を航海し、世界の 968 カ所を公式訪問した。王室ヨットの歴史はチャールズ 2 世のむかしにさかのぼり、1660 年、アムステルダム市民から王に贈られたメリー号に始まる。ブリタニアは 83 番目、最後の王室ヨットであった。退役後の王室ヨットは海に沈めるという慣習を廃し、ブリタニアに安住の地を与えるという提案に、英国各地からぜひに、と手が挙がった。

最終的にエジンバラが選定され、リース港のオーシャン・ターミナルに係留されたブリタニアに、何十万人の見学者が訪れ、王室の航海の日々を感じることができる。小さな船室から貴賓室、乗組員の居住区画、機関室まで、ブリタニアのすべてを見ることができる。残念ながら、見学者向けのアトラクションは 2020 年 11 月に一時的に取りやめとなったが、うまくいけば、2021 年に再び一般公開される予定である。その間はウェブサイトでも 1953 年にクライド川造船所で女王が完工を宣言したフィルムや、Book 43 のイアン・マクフェイルのレコーディングを聞いたり、ジョン・ドゥルーリが作ったダンスの、サマースクールにおけるデモを見たりしてほしい。

1896年12月14日（明治29年。官営八幡製鉄所建設中。前年に京都で日本初の市電開業）



グラスゴー地下鉄が開業した。建設に5年、150万ポンド（現在の2億ポンド/330億円に相当）の費用を要した。（今の日本では1km・100億円といわれている）。ロンドン（1863年。蒸気機関車が牽引）、ブダペスト（1896.5.2開業）について世界で3番目の地下鉄として歴史に刻まれている。

しかし、初日の午後3時に外回り線で重大な故障が発生し、午後11時には2編成の車両が衝突して18人の乗客が重傷を負ったため、全面運休となった。1897年1月に信号機問題が解決されるまで運休が続いた。しかしその後は順調で、1年目に900万人以上の利用があった。



現在のグラスゴー地下鉄。ホームが狭い。

鳥山さんのダンス、Book 53に

10月中旬、本部会員サービス委員長のアンジェラ・ヤングから、トム鳥山さん考案のダンス Elspeth Gray's Reel (R32) が2023年のBook 53に採り上げられるとの連絡がありました。『RSCDS 100年という節目に発行されるブックに載るわけで、うれしく、たいへん光栄に思います』との鳥山さんの言葉です。

Book 53 ダンス講習会

2023年8月19日（土）1:15-4:40
杉並公会堂グランサロン（荻窪駅北口5分）
杉並区在住会員の奮闘・努力の甲斐あって、会場が確保できました。いまからご予約を。

ご苦労さま、JEC 2022

9月11日のティーチャー学習会を終え、JEC（日本試験委員会）2022が解散しました。

委員長	鈴木百代（埼玉）
セクレタリ	奥村尚子（東海）
トレジャラ	柳川ともみ（東京）
委員	浅井恵子（東京）
委員	下村敏子（埼玉）
委員	真坂志穂（東海）

JEC 2022はコロナ渦の大変困難な条件の下で、39か月にわたりエギザミナーの来日手続き、会場確保、宿舎手配などを粛々と進め、きちんと役割を果たしました。お礼申しあげます。

王子であって王女ではない

Princes Streetはエジンバラで1,2位を争う繁華街である。この通りの名前は、国王ジョージ3世（1738 - 1820）の2人の王子、ロスシー公（のちのジョージ4世）とヨーク公にちなんでいる。したがって prince（王子）の複数形であり、princess（王女）ではない。エジンバラ・トラム（路面電車）でも、「プリンシズ・ストリート！」停留所、RSCDS本部前の停留所は「ウェスト・エンド、プリンシズ・ストリート！」と車内放送しており、プリンセスとは言っていない。この通り、ならびに隣接する公園を「プリンセス」と誤読している日本人は多い。スコットランドの公認日本人ガイドでさえ、プリンセスと言っているほどである。『地球の歩き方』は「プリンシズ・ストリート」と表記しており、さすがである。マガジン35号東京ランチ版ではすべてプリンシズとした。（トム鳥山）

クラスで踊られたダンス

ピギナース・クラス

9月12日 小杉由美子

The Castle of Mey	32R	Diamond J.
Balmoral Strathspey	32S	Book 22
Lady Catherine Bruce's Reel	32J	Graded 1
September in Skye	32S	Barnes

10月15日 若松陽子

The Clansman	32J	Book 32
Delvine Side	32S	Book 2
City of Belfast	32S	Book 48

11月8日 篠塚昌子

The Scots Bonnet	32J	Book 10
Susanne's Strathspey	32S	Goldring
Jan Maree	32R	Bell

12月6日 疋田千鶴子

Orpington Caledonians	32R	Book 49
Quiet and Snug	32S	Book 20
Sandy o'er the Lea	32S	MMM
New Year Jig	32J	Book 51
Ha! Ha! the Woin' o' it	32R	MMM

ソーシャル・クラス

9月26日 境 雅子

The Westminster Reel	32R	Book 45
Haig of Bemersyde	32S	RSCDS 1982
Pentamime	32J	Landon
The Jubilee Jig	32J	RSCDS Leaflet

10月8日 西森典子

Cairngorm Magic	40H	Kelly
Marianna's Strathspey	32S	Kelly
Celtic Square	32J	West
The Queen City Salute	32S	Book 37

+32R

The Cumbrae Reel	32R	Book 28
------------------	-----	---------

11月5日 小山かおる

The Kangaroo Paw	32R	Brenchley
Gaelic Mod	32S	Imperial 4 & 5
The Cane Toad Jig	32J	Downey
Where Good Friends Meet	32R	Boyd

グループチラシ取扱手数料

グループのチラシをランチ印刷物に同封して会員に配布してほしいという依頼がある場合、A4・1枚・1回につき¥1,000の取扱手数料をいただくことになっています。これはランチレターNo.117（2021年4月）のp.10、項目5で述べていますが、レターの片隅に小さく載っていただけなのでほとんどの会員にとっては、『そんなの知らない』だと思います。他のランチがやっているから、というのが手数料徴収の理由のようです。あまり意味のない事案なので、2023.1.1からチラシ取扱手数料は徴収しない、とします。

2022-2023 年度委員会

チェアマン 鳥山豊喜 044-577-5231

t-toriyama660@jcom.home.ne.jp

セクレタリ 小杉由美子 047-463-8520

ferrule.yotsukaidou@gmail.com

トレジャラ 境 雅子 047-368-3873

委員 大野宏子（ランチショップ担当）

042-576-9587

委員 寺久保ヒロ子 03-3801-6139

委員 渋谷明美 047-351-8581

メンバーシップセクレタリは当面チェアマンが兼務します。